

## 全員参加、手作りの障害者相談会・研修会

### 「成人の障害のある人の過ごし方と悩み」

一般社団法人栃木県手をつなぐ育成会 会長 小島 幸子

いつも栃木県の育成会を応援していただきありがとうございます。

6月に下野市で開催された障害者相談会・研修会（県委託事業）の報告をさせていただきます。

「学齢期の保護者に育成会のことを知って欲しい。そして学齢期の保護者はどんなことが悩みなのかを知りたい」という古口さん（下野市中心身障害児者父母の会会長）の強い思いがありました。そして近隣の特別支援学校のご協力をいただき保護者にアンケートを取ることが出来て、ほぼ半数の保護者から回答をいただきました。一番の悩みは「親なき後のことでした」そして育成会のことをご存知の方は少なかったです。このアンケート結果を受けて当日の内容を考え、事前に登壇者との打ち合わせも行いました

当日の会場設営は下野市社協の方を中心に会員で行い、司会進行も会員です。まず3人の会員からそれぞれのお子さんについて事例発表がありました。ある娘さんはセルフレジで買い物もできるけれど、こだわりがあり雨の日でも布団を干したいと主張する。ある息子さんは、グループホームに入所していてなかなか会えないが、たまに会うと下着などのゴムが伸びていて新調する。そしてホームには親が他界している方もいて将来の息子さんの姿を重ね合わせる。ある息子さんは、幼少期から病気で大変な手術を繰り返し頑張ってきたが、成人してから退行が見られ、日々の暮らしに苦労している。お母さんのご両親の介護、お母さん自身の病気・手術などもあり終わりが無いと感じている。どの方のお話も「それ、あるある」と思える内容でした。ちょっぴり切なく、でも同じ立場だからこそほっこり共感出来ました

次は、小島の話でした。はじめに障害のある人の意思決定支援について（そばかうどんか？）将来、小島さんちの息子さんはどうするの？の間について、医療について、障害基礎年金について、成年後見について、私が育成会を続ける理由などでした。

最後に下野市役所の方々とのパネルディスカッションで会場からの質問を受け付けました。下野市での災害時の対応や地域生活支援拠点などが話題となりました。スペシャルゲストで県障害者相談支援協働コーディネーターにも県内の地域生活支援拠点の現状などをお話いただきました

終了後の片付けも会員中心に行い和気あいあいで、全員参加の研修会でした。特別支援学校の保護者も数人の参加があり嬉しかったです。これからも皆さんの興味がある研修が出来るといいなあと考えています。よろしくお願ひします